

第3回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成29年8月1日(火) 10:00~12:03

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第4会議室

3 出席者

- (1) 委 員 中川玄洋委員長、下澤理如副委員長、上田雅稔委員、佐々木ちる子委員、谷口拓史委員、安田里菜委員、有田裕委員、池井輝夫委員、鈴木伝男委員
- (2) 鳥取市 福島協働推進課長、宮崎協働推進課課長補佐、西尾協働推進課市民活動係長、加藤協働推進課主任
- (3) 傍聴者 なし

4 議 事

(1) 審査事項

- ①市民まちづくり提案事業協働事業部門(行政提案型事業) 交付申請団体の審査

<鳥取市情報公開条例第7条第7項により非公開>

(2) 協議事項

- ①委員会における調査・審議の内容について

(委員長)

前回、フォーラムを無理してやるのではなくてこの2年間をしっかりと議論しながら地区公民館やまちづくり協議会の地域の拠点のあり方等をしっかり考えていって答申した方がいいという方向性まで出たのでその辺を深めていき、具体的に今年何をやるのかというところを位置づけられたらと思う。

<事務局説明>

(委員長)

私は5年くらい前から2年半くらい外部有識者として豊岡市のコミュニティのあり方検討委員として、そのあとコミュニティ向けの研修を3年やっていることもあり、雲南や豊岡のことに詳しい部分もある。

雲南市は10年前の合併のタイミングの時に、比較的大きな面積で合併をするので、各集落、各小学校区で市が全体としてやろうと思うことと若干ずれがでるのではないのかという部分、それと市の財政を長期的に考えると難しい部分も出てくるので住民側が自分たちで考えて動けるような予算の枠組みをしていこうということで立ち上がっている。すでに動いていたところに声掛けをした地域もあれば中学校区ぐらいでまとまってほしいというきっかけに従って出来た地域等もあるので地域のサイズ感はかなりバラバラ。雲南で合併した旧加茂町だと6千人のまちそのものが一つの協議会組織を持っていて、一方、吉田町だと人口173人で一つのエリアを持ち世帯数は54世帯。自分たちがどのサイズで地域

の運営をしていきたいのかというような形で組んでいるというのが特徴で、各地域それなりに合わせたものを提案出来ているという面もあれば、逆に言うと自分たちで考えないと始めてやることばかりで、中心になる人が大変で試行錯誤を繰り返し10年間やってきているというような部分というのがポイントになる。

仕組みとしては地域同士が自分たちの自治組織の取り組みを毎年褒めあうような発表会をやっていて事例報告会でもありながら地域でこういうことをやっているのはすごいと言い合えるようなことをしてお互いの地域の持っている技をお互いうまく盗みあうというようなことを導入している。そういうことをしながら地域と合意形成してきたが、やはり総意をまとめて伝えるとか施策にまとめて伝えることなどが難しくなってきたので、平成25年度から7年くらいやってみて施策に反映させるためには各地域それなりに集まったものをきちんと連合体として提案した方が、施策がうまくいくということもある。

個別具体のことをバラバラに出しても議会に通らないというようなこともあるので、ここは似た地域同士、似た部門同士が提案できるような場をとということで円卓会議という方式でやっている。議会とは違った形で施策提案をするというのをこの自主組織でやったりしている。ここ2、3年の傾向としては地域が自主組織を中心に受け皿を作られているので、その受け皿を横断的に連携させ、外部の例えば大学生を巻き込むとか、都会の社会人を巻き込むとか、NPOが外から入ってくるきっかけはNPOや役場などが自主組織に投げていくような構造ができていますので、今日本全国でも雲南の地域と外部の人の関わり方や地域の中の人との関わり方というのは注目を集めている、まさにトップランナーというところがある。

10年間やられてきた方の具体的な事例を見ることや具体的な悩みとか解決方法などを見るのには非常に良いのではないかなと思う。すでに何か活動をされているような方やイメージがついている方が行くとより一層学びが深いかなと思う。一方、雲南が難しいのはあまりにも多様過ぎて混沌としているとか、なんでもありなので共通的部分が見えにくいところがある。よく地域活動でも、うまくいっているところは、あの人がいるからうまくいっているのだというようなことがあって、なかなか地域の人がうちの地域にはスターがいないから駄目だ、逆にあのようになれそうもないという具合にびっくりしてしまうというようなパターンというようなことがある。雲南は10年の積み重ねがあり過ぎるので少し手が届かないかなと思われるような部分も感じられるかもしれない。

雲南市は小規模多機能自治の事務局もされているのでホームページで調べれば一層情報が出てくるかなと思う。豊岡市は今年から正式に地域コミュニティとして一括交付金事業という形で開始している。そのための練習期間として昨年まで3年間の準備期間を置いている。どちらかというと市長のトップダウンという形で、豊岡も鳥取と似ていて城崎から但東町の山奥まで、日高や神鍋高原など海から山まで、そして城崎、出石という一大観光地が2つもあって、まちづくりが難しいエリアになっている。雲南のような流れが組めないかという話を今から7、8年くらい前にする機会があり、コミュニティ検討委員会を立ち上げて2年半検討して、3年の練習期間を終えて今年からというような形になっている。

大枠はこういう考えもあるというようなことを地域側に提供している。地域側もいきなり自由にやっというとわれても、何が自由なのかそもそも分からないので、説明会をしながら今年のスタートにこぎつけている。但東町の山奥の方では6次産業化を始めているグループが、コミュニティの一部を請け負っているところもあるし、豊岡市のまちなかの市役所の近くエリアは逆に何をやっていいのかわからない、とりあえず協議会がやっとなり立ち上がってこれまでの公民館事業を続けながら、防災マップくらいは作らないといけないかなというような形になっている。豊岡を見るという点では、私たちがもしこういう話

し合いをして提案をして市が枠組み自体も変えていくという流れに恐らくなるとは思うが、なった当初地域がどういうふうに揺らぐか、どういう情報を伝えておいたほうがよいか、これだけ伝えてもこんなに伝わらないのだという事実をつかむためには、近い未来を豊岡はされているのでそちらを見るというチームもいてもいいのかなと思う。

(委員)

今先進地のことについて聞いたが、そもそも鳥取市のコミュニティの課題や現状はどうなのか、まずはそこをきちんと軸足を据えてからでなくては、ただよそだけを見てこんなものがある、だけでは空中分解してしまう。やはり、鳥取市には鳥取市独自の課題があると思う。私は自分の地域しか分かりませんが、他の地域はまちづくり協議会にしても公民館にしても、どういうふうな運営をされて、どんな課題があって、現状をどうしようとしているのか、自分たちで解決できる課題なのか、行政に施策として解決してもらものなのか、どのように認識されているのか、よその見学よりもそこからスタートしないといけないと思う。

(委員長)

そもそも現状確認をしようという話がありましたが、皆さんの考えはどうか。

(委員)

豊岡には4項目あるが、これがよくまとまっている。地域の要望も行政の要望もこの4点が中心になってくるのではないかなという気がしている。自分自身の関心があるのは地域福祉と地域防災で、他の人は人づくりとか地域振興に関心をもたれるが、それぞれの関心事項について、現在の鳥取市の組織の人から聞いてもいいのではないかな。

(委員長)

豊岡市は合併して旧町の要望は様々だが、旧町単位での予算は合併の時点でほとんど認められていないので豊岡市の本庁舎から出た施策を実行することになるが、それで各地域から問題が勃発し、もっとこういうふうにはやれないのかというような話が上がっていた時に雲南等の事例をみて、各地区考えてやってくれるのだったら予算をまとめて出すとなった。ある地域によっては自主作成の防災マップをまだ作ってないから、そのまとまった予算の中から防災マップを作ればいいし、すでに防災マップをすでに作っているところは訓練をやればいいというような形で、もう少し自由に地域で予算を使えるということになった方が結果的に無理やり事業をやらなくてもいいというのが一点。もう一点はいろんな事業を地域に頼んだ結果、担い手不足によって同じ人が何役もやることになってしまい、本当にこれで成り立つのかというようなことも含めて投げかけないといけないと思う。

(委員)

私のイメージとしては、地域に例えば15団体あって青少年育成協議会だったら青少年について、防災会だったら防災のことをやる、いろんなことをそれぞれの団体がそれぞれの活動をしているが、それを一つにして地域づくりをコーディネートするのがまちづくり協議会だと思う。

現状では、例えば防災会は地域住人からの集金分と市からの交付金で運営している。青少年育成協議会も市からの交付金と町内会から集めたものでやっているが、他の地域ではどうやって運営しているの

か。最初にまちづくり協議会が発足するときに市から手順や目標の設定などが書いてある手引書が出されて、交付金や人的支援については一律になっているが、一律にというのはどうかと思う。

もう一つ思うのは、雲南市がやっておられるように、ある程度評価しなければならないと思う。評価する一つの方法として地域同士の褒めあいというのが先ほどあったが、こんなことをやっているというような発表会をやっても意味がないと思う。まちづくり協議会がどのように運営されていて、地域の課題はこうだと、鳥取市の進めている方向はこうだと、それとマッチしているのかどうか、やり方について提案したり、計画を作って取り組んだりすることが大事だと思う。

(委員長)

まだ我々は現状が把握出来ていない、自分の地域のことは分かるけれどほかの地域のことも見てみたいという話もあるので、例えば、今鳥取はこうとか、どこかの地域の人に来てもらい話をしてもらうような委員会を組んで状況が分かったところで、今日提案があったところを見に行くというのを残りの半年に行ってもいいのかと思うがどうだろうか。

(事務局)

10年経過してまちづくり協議会の位置付けなどが機能としてどうなのだというような指摘もあったが、鳥取市の考え方、まちづくりのガイドラインと公民館の活用方針については3ステップで考えているところである。画一的に、行政主導で一律に、という考えではなく、地域や住民のコンセンサスを得ながら進めていく、その中で具体的な取り組みがあればそれを検証し精査して、他にも十分通用するものであればそれをスタンダードとして波及させていく、という考えでいる。

行政側として十分に内容を整理し、また地域の状況を整理する必要がある。市側としてもどういうふうに進めていったらいいのか、何をベンチマークにすればいいのか、というところを逡巡している部分もある。そういった部分の先進事例を調査することで、骨子となるような部分を見つけ出し、委員の皆さんにご提言いただけるようであればと期待しているところである。今の段階で市側は何を考えているのか、行政としてどういうふうに進めていこうと思っているのかということところは、正直、今は周辺の状況の調査や内部の業務の整理、公民館の業務の整理、まちづくり協議会の業務の整理を進めていこうとしているところであり、並行した作業になるがご意見、ご提言をいただきたい。

(委員)

公民館という建物が機能して、初めて公民館としての意味が出てくると思う。公民館の主事または館長のすべき仕事内容、またはすべきでないものはあるのか。

(事務局)

公民館の職員は公務員になるので、すべきこと、すべきではないことはある。鳥取市には61の公民館があるが、地域ごとに公民館職員のやっていることによりバラつきがあると認識している。本来公民館職員としてやってもいいのかというものもあり、整理すべき部分もある。

(委員)

そもそもまちづくり協議会は何のために作ったのか、まちづくり協議会を作ったときの目的や、当時の目的と現状の違いなどがあれば教えてほしい。

(事務局)

まちづくり協議会については10年前に設立しており、これは市が強制して設立したということではなく、各地区で地域の課題を解決するために協議会を設け、まちづくり計画を策定した場合に金銭的な支援、人的支援をするということで発足したものである。しかし、コンセプトや将来的に目指す方向がきちり示された状況でスタートしていなかった。そのために61のまちづくり協議会が、金銭的な支援を受けるためにとりあえずまちづくり協議会を看板にしており、結局実際に動いているのは公民館や自治会になっているのではないかといういろいろな形が見受けられる。目的やコンセプトを十分に示すことができていなかったというところが、このような形を生んでしまったのではないかと思っている。公民館職員は自治会の仕事も任され、まちづくり協議会の事務局もやり、重複したような仕事をしている状況もある。この度のまちづくりのガイドライン、公民館活用基本方針の中で整理したいと思っているところである。元々のスタート時に行政側から明確にあるべき姿などを示していないと思っている。これから、このことについてはリセットして再構築していきたいと思っている。

(委員)

無理して一本にまとめるというのは乱暴な議論だと思う。

(委員)

まちづくりの主演である市民が自ら地域の課題を解決していく会ではなくて、むしろ今実働で動いている中で各地域によって地区公民館などで起こっている諸問題のほうが喫緊の課題なのかなと感じた。そのスキームの部分は人的な配置については担い手不足があるなかで、市が担うところなどの細部の住み分けについては、会議体を設けて自治会ごとに議論したところで答えがないから空中分解すると思う。市が主導権を持ってある程度の答えをもって会議に臨まないとまとまるものもまとまらないと思う。まちづくりフォーラムと銘打ってあったけれども、雲南市や豊岡市をゼロベースで、地域で起こっている課題を少子高齢化が加速していく中で、鳥取市の包括的な問題を解決するということに臨むのかどうするかというベクトルを揃えないといけない。会議を開くにしてもある程度の答えを用意した上で臨む必要がある。

(委員)

基本的にはまちづくりの軸足をどこに置くかが大事だと思う。地域で暮らしていくためには何が必要なのかというと、やっぱり地域コミュニティが動かない限りは、ぎりぎりまで地域で暮らしていけない。

(委員長)

地域がうまく回っていない公民館もあるという話を、集まってもしくは事例紹介という形になるのかもしれないが地域の方に喋ってもらう、勉強会のあと議論をしてもらうような委員会をするという流れが一つなのかなと思う。視察に行くかどうかはそこで得た状態で豊岡なり雲南なり、ほかの地域等で今言ったような解決策をこの仕組みを使ってやられているところがあれば、ご紹介できるようにということにできればと。2年間で我々は仕組みをこういうふうにしてはという提案をしないといけなくなるので、今年は前回のお話でフォーラムは開催せず、調査研究の残り半年になるのかなと思っている。すぐではないが年度内にどこか行けるというタイミングがあればいいと思う。

(委員)

協働のまちづくりガイドラインと公民館活用基本方針の2つがいつも出てくるが、なぜ分けなくてはいけないのか次回説明してほしい。

4 報告事項

① 審査結果報告

5 閉会